

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校65.7%, 県66.8%)

対県比 98.4%

学力定着実態調査 本年度正答率

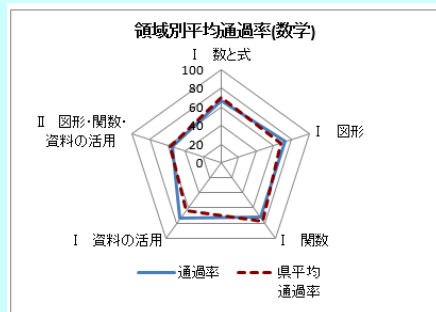
本校 71.5%
全国 71.9%

対全国比 99%

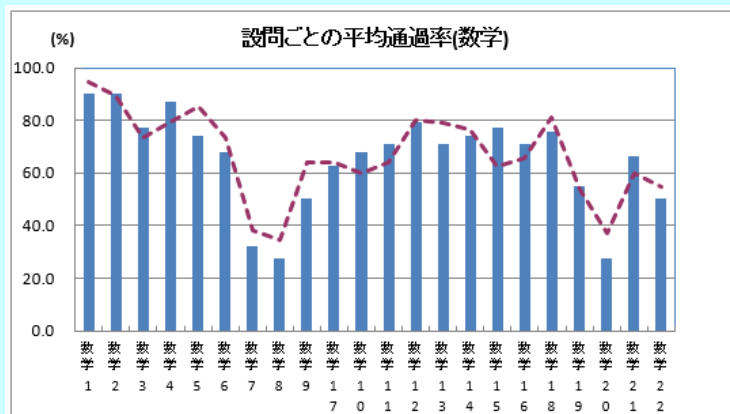
本年度の結果について

・タイプⅠは68.9%, タイプⅡは54.8%の通過率となっている。基礎的な計算問題は定着が見られるが、分数や小数が入った方程式などの計算問題では通過率は低い。
・文字を使い数量関係を表した式の意味を理解する、数量関係を式で表すなどの問題で大きく通過率が低くなっている。

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



全国学力・学習状況調査 本年度正答率

A問題
本校 58.9%
全国 62.1%
県 62.2%

B問題
本校 43.9%
全国 44.8%
県 44.1%

来年度(全国学力学習状況調査)の目標値

対全国比 105%

重点課題

「基礎・基本」定着状況調査

【数式分野】

【課題1】(文字式の表し方) (27.4%)

▼2つの線分の長さの比や数量を文字式を使って表現する設問の正答率が非常に低い。文字を使う意味、文字の使い方や規則が習得できていない。等しい関係の数量を見つけて等式にすることが出来ない。関数の式も等式であることを理解できていない。方程式と関数の式での文字の使い方の理解に課題がある。

【課題2】(事象の解釈と表現) (27.4%)

▼伴って変化する2つの事象の関係を理解し式に表す設問の正答率が非常に低い。変化する関数を表す方法として表とグラフがあるがそこから式にしていけることが出来ない。

全国学力・学習状況調査

【課題1】() (%)

【課題2】() (%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】 目標値 (60%) 実施後数値 (%)

◎式の計算では、文字式の活用の場面で長さの違う2つの線分を提示しその割合や比を考えさせる。その際に数量に関するいろいろな場面を提示し、比で等式を作り、方程式に変形する演習を行う。

◎連立方程式では、連立方程式活用の場面で日常生活に繋がり自ら解きたくするような問題を毎時間一問取り組む。その際、具体的な量を文字を使って表す課題にも継続して取り組ませる。

【課題2】 目標値 (60%) 実施後数値 (%)

◎一次関数の学習で2つの事象の関係を理解する際に、表やグラフから式を作る練習を繰り返し行うことで理解を深める。その際に、一次関数の特別な形としても比例を紹介し、比例定数の意味などの理解を深める。また、反比例の式についても扱う。

全国学力・学習状況調査

【課題1】 目標値 (%) 実施後数値 (%)

【課題2】 目標値 (%) 実施後数値 (%)

※今後の改善計画については別紙